

有明海漁場造成技術開発事業（継続）

1 趣 旨

水産基本計画において、水産物の安定供給の確保を図ることは、国の基本的な責務とされている。

一方、有明海は、我が国のノリ養殖生産高の約5割と重要な地位を占めているが、アサリ等の二枚貝類の生産は、昭和61年に4万トンを超える生産量を記録した後は、減少を続け、最近では2万トンを下回る水準に留まっている。その原因として底質の泥化、底層水の貧酸素化等底質環境の変化が指摘されている。

また、平成14年に制定された「有明海及び八代海を再生するための特別措置法」では、国は有明海及び八代海の海域環境の保全・改善及び漁業振興を図るための調査を行うこと等が規定されており、同法により設置された「有明海・八代海総合調査評価委員会」は、平成18年12月に具体的な再生方法として、底質環境の改善及び貧酸素水塊等への対応等について効率的に実施していく必要がある旨主務大臣に意見を述べたところである。

このため、有明海における二枚貝類の漁場環境の改善を図るため、有機物の堆積や底質の泥化が認められる有明海の漁場において、底質の改善、貧酸素水塊発生時の漁場環境の改善などを目的とした技術開発を試験的に実施することにより、低コストで効果の高い漁場造成技術の開発を行うものである。

2 事業内容

有明海における有機物の堆積や底質の泥化が認められる漁場において、浮泥対策、砂止め潜提を活用した覆砂などの底質等改善技術の開発や、微細気泡装置による貧酸素水塊対策などの曝気・耕耘効果技術の開発を行う。

(1) 底質等改善技術の開発

有機物の堆積や底質の泥化が認められる漁場において、海水流動促進施設の施工による底層の水質改善や底質の移動状況把握による覆砂漁場の機能維持など、二枚貝を中心とした水産生物の生息環境の改善を目的に、技術の実証を行う。

(2) 曝気・耕耘効果技術の開発

二枚貝漁場又は養殖場において、微細気泡装置による耕耘を行い、底質環境を改善させるとともに、曝気による酸素供給を行い貧酸素水塊発生時の水産生物の生息環境の改善を目的に、技術の実証を行う。

3 委託先

民間団体等

4 事業実施期間

平成20年度～平成24年度

5 平成24年度概算決定額（前年度予算額）

310,180千円（344,645千円）

6 担当課

事業内容（1）について	水産庁研究指導課	03-3591-7410（直）
事業内容（2）について	水産庁漁場資源課	03-6744-2379（直）

有明海漁場造成技術開発事業

【平成24年度概算決定額:310百万円】

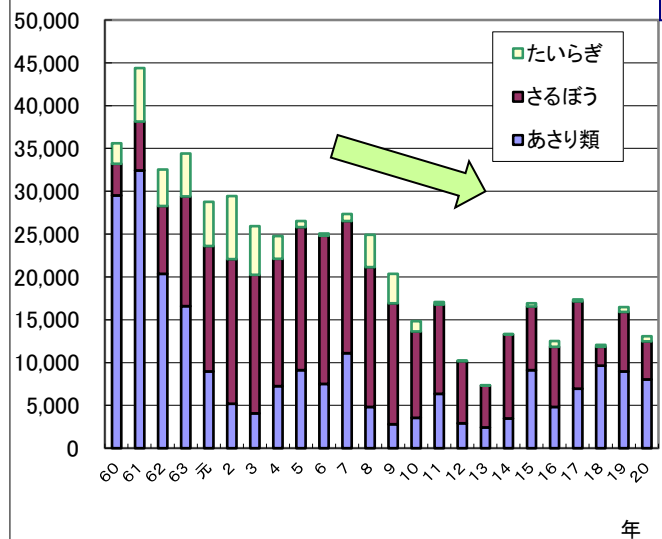
有明海の水産業

- ・有機物の堆積 → 貧酸素水塊の発生
- ・底質の泥化

貧酸素水塊が、
平成22年7月に発生！

- ・二枚貝等の漁業資源の減少

有明海における主要貝類の種別生産



二枚貝類の漁場環境
の改善が必要！

現地実証による取り組み

有明海環境改善技術開発事業(H17～H19)

覆砂漁場機能増進技術／微細気泡装置による耕耘効果技術 等

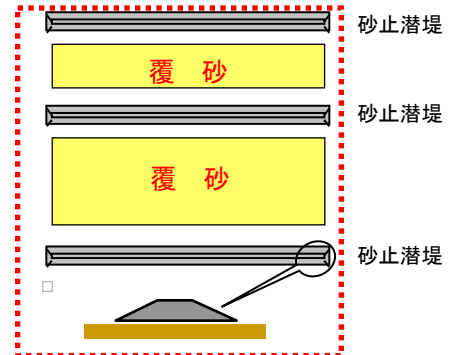
有明海漁場造成技術開発事業 (平成20～24年度)

○底質等改善技術の開発

アサリ漁場における浮泥対策、砂止め潜堤を活用した覆砂など



杭が流れを乱して浮泥を
巻き上げます。



○曝気・耕耘効果技術の開発

微細気泡装置による貧酸素水塊対策(カキ、アサリ)など

